

昭知女大家政 村サネニ子 後藤好子

昭知女短大 ○安蔵裕子

〈目的〉 オ五報に引きつづき、近江商人小林家所蔵の洋装を資料とし、その実測データから研究をすすめるものである。

〈方法〉 オ六報においては、背広型洋装2種についてとりあげ、形態、素材、各部計測による構成パターンの検討、縫製技術、付属品などの実測調査により、それらの特質について考察を試みる。

〈結果〉 上着、シャツ、ズボンの背広型一揃いは2種類あり、いずれもそのラベルから「H.J. NICOLL」製のものであることがわかった。

立体構成の技術、各部ミシン縫い、手縫いは、表裏にかかわらず巧みで精緻な仕事を示し、高級テーラーの仕事だと思われる。洋行中から使用頻度が高かったと考えられるが、その縫製技術の確かさは、現在もなお布地の風合、形態が損われないうちに、当時の洗練された着装を想起させる逸品である。

明治洋装史上、紳士服及び洋服業の変遷発達に関わる資料としてのデータを得、その特質について考察できる。